

「絆」お互い様のお互い様 心豊にお互い様の 気持ちを持って

ふれあいレインボー事務局主事
木原敦子さん

「絆」と一言で言っても色いろな意味があると思う。家庭はもちろん、地域や学校、職場、サークルなどなど、自分が関わっている人たちとの絆。絆とは人と人とのつながりではないだろうか。お互いを知り認めることからつながりが出来る。

これは、親子・家庭が基本であり、そこから他人とのつながりへと発展していくものだと思う。しかし、悲しい

かな。言い過ぎかもしれないが、今は基本である親子・家族が崩壊しつつある状況ではないだろうか。

基本が崩れてしまうと、どんな世の中になるのだろうか。「一人ひとりが自己中心的になり、他人のことなどどうでもいい。」「家族がどうなるかと自分には関係ない。」「自分さえよければそれでいい。」と、自分のことしか考えない人間が増え、世の中は無法地帯になってしまっただろう。考えると恐ろしいことである。世の中が悪いと言ってしまうればそれまでだが、悪いときにこそ心は豊かにし親子・家族の絆を深めたいものだ。

コミュニティ主事という立場から、子どもたちと接することが多い。また、平成14年度から18年度までアンビシャス広場を開設していたこともあり、そのころに関わっていた子どもたちが卒業して今でも声をかけてくれる。週に3回で1日2時間程度の付き合ひしかない小さな絆だが、心からうれしく思う。

卒業生は、小学生のときのイメージジシかないので、成長した子どもも



木原さん



校区のみんなが一緒になって楽しむ校区コミュニティまつり

ちを見て誰だか分からないときもあるが、随分大きくなったと目を細めている。在校生の中にも、アンビシャス広場に関わった子どもたちがたくさんいる。現在は広場がないので、事務局が開設している日のお昼休みに遊びに来てくれる。子どもたちから、「なんでアンビシャス広場もないのにここに居るの?」と、よく言われていた。

最近、アンビシャス広場とはかわりのない子どもたちや、隣の教室でビスケットクラブに来ている子どもたちもよく遊びに来る。子どもたちは私を知っている、まったく知らない子がこちらから聞きもしないのに、

突然「うちのお父さんとお母さんは離婚調停中で別居しているよ」とか、「自分はおじいちゃんの家にいるの」など、子どもの方から言ってくることもある。小さな胸のうちを誰かに聞いてほしいのだろうか。驚くとともに、子どもの口からそんな話は聞きたくないことである。

親は別れてしまえば他人になるが、子どもはそうはいかない。子どもにとって、お父さんとお母さんはこの世で二人しかいないのだから。他人が変わってあげることができないのである。そういう子どもたちの将来が、とても心配である。

今回、サブタイトルに「心豊にお互い様の気持ちを持って」と付けたのは、心の貧しい大人が増えているように感じられるので、もっと相手の気持ちを感じる心を持ってほしいという思いからである。お互いにそういう心が持てれば、崩壊しつつある親子や家族前に述べた子どもたちが少しでも減るのではないだろうか。

私ごとで恐縮だが、10月に初孫が生まれた。とてもかわいい待望の女の子である。生まれる前から長男夫婦には子どもを悲しませるようなことはしてはいけなと言っている。多分そのことは守ってくれると思う。

最後に、お互い様にも悪い意味でのお互い様の気持ちもあるので、よい意味での心豊にお互い様の気持ちを持つことを切に願う。

校区コミュニティ情報

「新しい連携による人づくり」 「新しい集団によるまちづくり」

「コミュニティの紹介」

各コミュニティの紹介を、10月から3回に分けて行なっています。第3回目は、第三小学校区のふれあいレインボーです。今回は、ふれあいレインボー推進会議会長にインタビューしました。

Q ふれあいレインボーの紹介をしてください。

ふれあいレインボーは、平成8年にPTAを中心とした活動が始まり、①地域の人が出会う機会をもち、ふれあい学びあい相互の理解を深める
②思いやりと助け合いのある豊かな人間関係の確立
③安心・充実した生活が営まれる地域づくり
を目的とし、地域・家庭・学校が一体となって運営しています。

平成13年度のコミュニティ事務局創設当初は、小学校の先生方の協力のもと、学校行事であった発表会や運動会に地域が参加し、「ふれあい祭り」や「ふれあい運動会」など、地域と小学校が中心に事業を展開をしていました。そ

の後、地域のみなさんや各種団体のご協力もあり、子どもたちを見守る様々な枠組みが創設されています。現在は、分館の枠を超えた「校区ふれあい夏まつり」を開催し、「校区コミュニティ」活動の事業に取り組んでいます。

Q 主な活動内容を教えてください。

ふれあいレインボーは「ふれあいレインボー推進会議」を組織し、役員会・推進会議を中心に事業を決定しています。また、「防犯部会」「事業部会」「広報部会」を立ち上げ



輪が2重3重と広がる「総踊り」

それぞれの事業を展開しています。

防犯部会では、子どもたちが「110番の家」を訪問する「子ども110番ウォークラリー」や、地域のすべての人が子どもたちを見守る「地域防犯パトロール」を実施し、地域の子どもの安心・安全を目指しています。

事業部会では、小学校と地域が一体となった「ふれあい運動会」や、子ども会育成会の合同事業「ふれあいお楽しみ会」、地域のみなさんの健康づくりのための「スポーツ交流会」を実施し、健康・融和を目指す取り組みを実施しています。

広報部会では、年2回機関紙を発行し、ふれあいレインボーや学校の事業紹介など、「ふれあいレインボー」を身近に感じてもらえる広報を心がけています。

この他、コミュニティの中

Q これからの活動方針と今後の目標は何ですか。

急速な時代の進展により、世帯数や財政規模、少子高齢化や組合加入率の低下など、現代特有の地域の諸問題が浮き彫りとなってきました。このような時代の変遷をふまえて、各分館長さんや地域のみなさん、小学校と手を取り支えあい、「おもいやり・助け合い・相互理解」の心をもって、未来の子どもたちのための地域づくりにも少しくお役に立てればと考えています。今後とも、地域のみなさんのご理解とご協力をお願いいたします。

会長プロフィール

ふれあいレインボー推進会議会長
原田 謙二 氏 新原区在住

平成19年度から同推進会議の会長となる。この他、須恵第三小学校学校評議員、須恵町社会福祉協議会評議員、東福岡少年軟式野球連盟会長を務められるなど、青少年の健全育成・地域づくりに寄与されている。

